

## 1 研究主題

### 社会的な見方・考え方を働かせる社会科学習指導

～学習の視点を明確にする資料提示と思考ツールを活用した対話的学習活動の工夫を通して～

## 2 主題設定の理由

### (1) 社会の要請から

現代社会は、chat GPT を代表とする人工知能 (AI)、ビッグデータなど先端技術が高度化し、あらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代に突入しようとしている。新型コロナウイルス感染症により一層先行き不透明な中、これまでであった社会の在り方が大きく変わり、予測困難な時代となっている。

また、国際的な動向を見ると、国際連合が 2015 年に設定した持続可能な開発目標 (SDGs) などを踏まえ、自然環境や資源の有限性、貧困、イノベーションなど、地域や地球規模の諸課題について考えていくことが求められている。

このような社会の中で、これからの子どもたちには、一人一人が、自分のよさや可能性を認識し、他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることが求められている。

この状況を踏まえて、中央教育審議会では、これからの子どもたちに必要とされる資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の 3 つを柱とし、学校教育を通してこれらの資質・能力を身につけさせていくべきであるとしている。そのためには学校は児童・生徒や地域の実態を適切に把握し、教育の目的・目標の実現に必要な教育内容等を教科等横断的な視点で組立てるなど、教育活動の質の向上を図っていく必要がある。

また、各教科等の指導に当たっては、資質・能力が偏りなく育成されるよう、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことを提起している。これからの学びを支える上で必要不可欠な ICT を活用し、知識や学び方を身につけ、社会との関わり主体的に考えていける人間を育てていく必要がある。

### (2) 学習指導要領の趣意から

新学習指導要領では、育成を目指す「生きる力」を具体化し、①「何を理解しているか、何ができるか (実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」の習得)」、②「理解していること・できることをどう使うか (未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)」、③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか、学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)」の 3 つの柱に整理している。その資質・能力の育成に向けて「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が必要であることを示している。深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要になる。児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題

をみだして解決策を考えたり、思いや考えを基に考えを築いていく学習の過程を重視している。無論、社会科においても見方・考え方を働かせよりよい社会を築いていく力の基礎を育むことが求められている。

### (3) 児童の実態と指導上の課題

社会科事前学習アンケート（9月実施）の結果は次の通りであった。

- |                                      |       |                 |       |  |
|--------------------------------------|-------|-----------------|-------|--|
| ① 社会科の授業は楽しみである。                     |       |                 |       |  |
| ○あてはまる                               | 28.6% | どちらかというにあてはまる   | 50.0% |  |
| ●あてはまらない                             | 7.1%  | どちらかというにあてはまらない | 14.3% |  |
| ② 図やグラフ、写真などの資料から必要なことを読み取ることができている。 |       |                 |       |  |
| ○あてはまる                               | 14.3% | どちらかというにあてはまる   | 25.9% |  |
| ●あてはまらない                             | 18.5% | どちらかというにあてはまらない | 40.7% |  |
| ③ 学習課題を自分の力でつくることができている。             |       |                 |       |  |
| ○あてはまる                               | 7.1%  | どちらかというにあてはまる   | 28.6% |  |
| ●あてはまらない                             | 25.0% | どちらかというにあてはまらない | 39.3% |  |
| ④ 社会のできごとに対して自分の考えをもてるようになりたいと思っている。 |       |                 |       |  |
| ○あてはまる                               | 25.0% | どちらかというにあてはまる   | 46.4% |  |
| ●あてはまらない                             | 17.9% | どちらかというにあてはまらない | 10.7% |  |

アンケートの項目①の結果から、社会科の授業に対して興味・関心があり、意欲的に参加していることがわかる。しかし、項目②、③から自ら課題を設定し、資料を活用して明確な自分の考えを持つことができていないと思っている児童が多い。

実際、児童は積極的に社会科の学習に取り組む姿が見られる。しかし、課題設定を教師側で設定してきた場面があったため、児童は学習課題についても教師が示すものと受け身的な学習態度としてみられる。また、全体的な傾向として、自分の考えを学習によって得た知識をもとに文章構成し、表現することが得意ではない。ノートのまとめやふりかえりには、自分の考えを短いながらも根拠を基に書いている児童もいるが、言葉で表現することができていない児童が多い。そのため考えをまとめる前にペアや班で意見の交流をしているが、自分の考えを言い合うだけになり、相互の意見を比較したり、自分の考えを深めたりするまでに至っていない。よって、書く活動を通して自分の考えを可視化、構造化して他者の考えと比較する取り組みが必要になると考えている。

## 3 主題の意味

### (1) 「見方・考え方を働かせる」とは

社会科における「見方・考え方」とは、社会的な事象への関わり方であり、追究する際の「視点や方法」と学習指導要領では説明している。

「視点」とは、地理的環境（空間軸）、歴史（時間軸）、現代社会の仕組みと働き（社会システム軸）の3つを指す。これらの視点をもって、社会的な事象を見たり考えたりすることによって、社会的な事象を多面的、多角的に捉えることができるといえる。

学習指導要領に示している「方法」とは、さまざまな社会的な事象や事実を他の考えと比較したり、分類したり、整理したり、関連づけたり、考えを総合することである。事象や事実を処理したり、操作したりする手立てや手続きであり、処理や操作をすることで社会や社会的な事象の意味や働き、

特色などを捉えることができるようになる。様々な社会的事象を通して、概念を得ることが他の場面でも応用できるようになると考えている。

つまり、「見方・考え方」を働かせるとは、社会に対する理解や認識を深めるために重要な道具であり、目的にあった「視点・方法」を協働的な学びに基づいて、適切に使いながら学んでいくことが、深まりのある学びにつながると考える。

## (2) 「学習の視点を明確にする資料提示の工夫」とは

教師が一方的に問いを掲示するのではなく批判的な思考をもとに子ども自身が問いを設定できるように資料提示をすることである。

社会科では、地図や年表、図表、写真資料、文献などから情報を読み取り、必要な場面で活用していく。しかし、地図を見せるだけでは子どもが空間的な広がりに着目するとは限らない。また、年表をみれば時間の経過に着目するとは限らない。そこで、教師が視点（見方）を意識して意図的に資料提示することが大切になる。本研究で設定した学習段階である「つかむ」段階で、教師が意図した問いや課題が子どもから出されるように、児童の興味・関心や生活経験など、児童の既存の概念と関連しやすい資料を提示する必要がある。

## (3) 「思考ツールを活用した対話的な学習活動の工夫とは」

対話的な学習活動を進めるためには、個々の児童が根拠を基に自己の考えの構造を明確にしていく必要がある。その構造的な考えを基に交流することで、その構造的な考えの個々の要素に着目しながら自他の考えを比較することにより、一致点や相違点、その他の考えを明確にすることができる。そのことを通して、自己の考えを再構築することができるようになると思う。

その構造化の手立てとして、ダイヤモンドランキングやピラミッドチャート、三角ロジックなどの思考ツールを活用したいと考えている。学習内容に応じた思考ツールを活用することで、学習的に厳しい児童がいる状況でも、個々の思考を深める場面で支援できるため有効であると思う。また、視覚的に自他の考えを比較し、交流場面においても交流の視点が明確にできると考える。

## (4) 「学習の視点を明確にする資料提示と思考ツールを活用した対話的な学習活動の工夫を通して」とは

児童に自ら学習課題を設定させることで、学習を行う意義を感じ主体的な学習につながる。単元全体を通してのゴールの姿を目指し、その授業や単元全体を見通して計画的に学習に取り組む姿が見られるようになると思う。さらに、課題を基に交流活動を行うことで個の学びが広がったり深まったりするだけでなく、学ぶ力が身につくなど低学力の児童を含む集団全体としての学力の底上げにもつながると考える。

このように、本研究を進めることは、「主体的・対話的で深い学び」を実現するためにも大変意義深い実践だと考える。

## 4 研究の目標

社会的事象の見方・考え方を働かせる児童を育成するために、児童自身学習の課題を明確にするための資料提示と児童の考えを可視化・構造化する思考ツールを活用した対話的な学習活動のあり方について究明する。

## 5 研究の仮説

### (1) 研究の仮説

社会科学学習において学習の課題を明確にする資料提示と児童の考えを可視化・構造化する思考ツールを活用した対話的活動を関連させながら設定すれば、社会的事象の「見方・考え方」を働かせる児童を育成できるであろう。

### (2) 本研究の構想図





## 6 研究の計画（授業の計画）

### （1）実践1

- ①単元「全国統一への動き」
- ②単元の目標及び指導計画

単元	全国統一の動き	総時数	6時間	時期	9月
単元の目標	○キリスト教の伝来、信長・秀吉・家康の天下統一を手がかりに、戦国の世が統一されたことを理解することができる。（知識） ○世の中の様子、人物の動きや文化遺産などにについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、必要な情報を読み取り、年表や文にまとめることができる。（技能） ○世の中の様子、人物の動きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見出し、キリスト教の伝来、信長・秀吉・家康の全国統一への役割について考え、表現することができる。（思考力・判断力・表現力等） ○信長・秀吉・家康の天下統一について予想や学習計画を立てたり見通しをもったりして、主体的に学習問題を追究・解決しようとしている。（学びに向かう力・人間性等）				
次	時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点（援助・支援）	
つかむ段階	1	戦国大名の領地の変化や長篠の戦いの様子に着目し、戦国の世の中から全国統一されたことについて学習問題をつくり、予想をもとに学習の見通しをもつことができる。	○2枚の地図から数ある大名の中で信長・秀吉・家康の領地が急激に拡大したことに着目し、疑問を出し合う。また、長篠の戦いの絵図から信長・秀吉・家康の戦い方に着目し疑問を出し合う。疑問から学習問題をつくる。	・地図「1560年頃の領地」と地図「1590年頃の領地」を資料提示し、比較させることで信長・秀吉・家康の領地の変化を空間的な広がりに着目して捉えるようにする。 ・長篠の戦いの絵図の読み取りが難しい場合は、右の軍と左の軍の違いや人々の	

				整備や、周りの様子に着目するように助言する。
<p>【学習問題】なぜ、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の3人は戦国の世を統一することができたのだろう。</p>				
			○学習問題に対する予想をもとに、学習計画を立てる。	・これまでの歴史の学習で学んだ視点を生かして予想をするように助言する。
2 調 べ る	2	信長の行った政治やキリスト教の伝来を調べ、全国統一に向けて信長が果たした役割を考えることができる。	○教科書や資料集を使い信長の業績について調べ、ロイロノートを活用して学習カードにまとめる。 ○戦い・政治・外交の観点から信長が天下統一を進めることができた要因を話し合い、考えをまとめる。	・想像図「安土城の城下町の様子」や図「南蛮屏風」を読み取り、どうして信長がキリスト教を認めたかその理由に着目させ、外国との貿易を行うことや楽市楽座などの政策が商工業を発展させたことを捉えるようにする。
	3	秀吉が行った政治を調べ、全国統一に向けて秀吉が果たした役割を考えることができる。	○教科書や資料集を使い秀吉の業績について調べ、ロイロノートを活用して学習カードにまとめる。 ○戦い・政治・外交の観点から秀吉が天下統一することができた要因を話し合い、考えをまとめる。	・想像図「刀狩の様子」、文章「秀吉の刀狩令」、想像図「検地の様子」を読み取り、どうして刀狩や検地を行ったのかその理由に着目させ、身分の決まりを通して、秀吉が武士による支配の仕組みをつくったことを捉えるようにする。
	4	家康が行った政治を調べ、全国統一に向けて家康が果たした役割を考えることができる。	○教科書や資料集を使い家康の業績について調べ、ロイロノートを活用して学習カードにまとめる。 ○戦い・政治・外交の観点から家康が天下統一を進めることができた要因を話し合い、考えをまとめる。	・図「関ヶ原合戦図屏風」、図「江戸図屏風」、地図「江戸の町の広がり」を読み取り、家康が対立する大名を破り、大規模な工事などを通して、大名の支配を強めたことを捉えるようにする。 ・なぜ2年で將軍職を息子に譲ったのか考えさせ、家康のねらいに気づかせるようにする。
	3 深	5	信長・秀吉・家康が全国統一に果たした役割を表に	○調べたことをロイロノートのシンキングツールを活

める		整理し、3人の業績を比べて考えを表現することができる。	用して表に整理して、信長・秀吉・家康の業績を比べ、考えをまとめる。	交」の視点で3人の業績を比べさせる。
4 ま と め る	6 本 時	班や学級全体で単元の課題に対する結論を話し合う活動を通して、自分自身の考えを表現するだけでなく、友だちと対話したり、考えを共有したりして、理解を深め、単元全体のまとめをすることができる。	○整理した表や3人に対する評価をもとに問いの答えを説明し合い、戦国の世に果たした3人の役割を話し合い、学習課題に対する考えを書く。	・学習問題をふりかえり、3人がそれぞれ天下統一に果たした役割に着目させ、天下統一に対する3人の業績の結びつきを捉えさせるようにする。

### ③授業の実際

#### ア 主眼

信長・秀吉・家康の業績を、思考ツール（ピラミッドチャート）を活用し整理・比較して考えることを通して、戦国の世を統一してきた3人の武将の役割について考えるようにすることができる。

#### イ 準備

年表「3人の武将の人物年表」、「信長・秀吉につかえた家康」タブレット（ロイロノート）

#### ウ 展開

	学習活動	指導上留意点	配時
導 入	1 信長・秀吉・家康の業績を年表や政策をまとめたロイロカードで振りかえる。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秀吉は信長の家来だった。</li> <li>・秀吉が信長の後を継いだ。</li> <li>・家康は信長・秀吉につかえていた。</li> </ul> </div>	○年表「3人の武将の人物年表」や年表「信長・秀吉に使えた家康」から、時間の経過に着目させて、天下統一が信長から秀吉を経て家康に引き継がれたことを捉えるようにする。	5 分
展 開	<b>めあて</b> なぜ、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の3人は戦国の世を統一することができたのだろう。		
	2 整理した信長・秀吉・家康の政策をもとに、3人の天下統一に果たした役割を、ピラミッドチャートを活用して整理する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> <b>武将の役割</b> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center; margin: 0;">信長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教の許可</li> <li>・商業の活性化 (楽市・楽座)</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center; margin: 0;">秀吉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教の禁止</li> <li>・検地の実施</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center; margin: 0;">家康</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸で大規模な工事を実施</li> <li>・將軍職を2年で息子に譲渡</li> </ul> </div> </div>	○ロイロノートのYチャートを活用して「戦い」「政治」「外交」の視点で分類させて、3人の武将の業績を整理する。	10 分

まとめ	<p>3 天下統一に果たした信長・秀吉・家康の役割について、考えをグループで話し合う。</p>	<p>○まとめたピラミッドチャートを活用して信長・秀吉・家康に対する評価を話し合い、それぞれの業績の意味を考えさせる。</p>	10分
	<p>・信長は商工業を盛んにしたり、外国と貿易をしたり新しいことに取り組んで天下統一をめざした。</p>	<p>・秀吉は刀狩や検地など、いろいろな決まりを作って人々を従わせることで天下統一できた。</p>	
	<p>4 班で話し合ったことや自分の考えを全体で交流する。</p>	<p>○それぞれの考えまとめたピラミッドチャートをロイロノートの提出箱に提出させ、回答を共有することでそれぞれの考えを比較させる。</p>	12分
	<p>5 信長・秀吉・家康の業績を比べながら、学習問題についてのまとめを文章で表現する。</p>		8分
	<p>・信長・秀吉・家康のそれぞれの働きによって戦国の世の中が終わり、天下が統一された。 ・家康は、信長や秀吉の成功や失敗から学び、江戸幕府を安定させる仕組みを作ることができた。だから、3人の業績があって、天下統一ができた。</p>		
	<p>○ロイロノートで提出した業績カードやシンキングツールを資料として班や自分の考えを発表する。 ○話し合いや全体交流から、3人の業績に対する評価を再度行い、戦国の世を統一した3人の役割を表現させる。</p>		
<p>まとめ 信長・秀吉・家康の3人の業績があって、戦国の世が終わり、天下統一をすることができた。</p>			

## (2) 実践2

- ① 単元「明治の新しい国づくり」
- ② 単元の目標及び指導計画

単元	明治の新しい国づくり	総時数	8時間	時期	11月
単元の目標	<p>○黒船来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などから、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解できる。(知識)</p> <p>○世の中の様子、人物の動きや文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、必要な情報を読み取り年表や文にまとめることができる。(技能)</p> <p>○他の時代と比較したり、近代化の様子や人物の願いと働きを相互に関連づけたり、この頃の政治の仕組みや世の中の様子を考え、表現することができる。</p> <p>(思考力・判断力・表現力等)</p> <p>○条約改正にむけた取り組みについて、予想や学習計画を立てたり見通をもったりして、主体的に学習問題を追究・解決しようとしている。(学びに向かう力・人間性等)</p>				
次	時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点 (援助・支援)	
つかむ段階	1	江戸時代の様子を描いた絵と明治時代の初めを描いた絵の違いに着目し、江戸時代が終わり新しい国づくりが進められたことを考えることができる。	○2枚の浮世絵から人々や建物、乗り物の様子の変化を読み取り、調べてみたことや疑問を出し合う。	・絵図「明治時代初めの(1872年)の高輪の様子」と絵図「江戸時代(1850年)の高輪の様子」を資料提示し、わずか20年の期間で変化したことに着目し、一体何によって変わったのかを予想することを通して、大きく時代を変化させた要因について課題意識をもたせるようにする。	
	2	黒船来航の目的や幕府の対応を調べ、外国と結んだ条約の内容をつかみ、それによってどのような影響があったかを考え、学習課題を設定し、学習の見通しをもつことができる。	○ペリー来航の経緯を調べ、世の中にどのような影響を与えたのか話し合う。 ○前時を含めて振り返り、疑問や調べたいことを整理して学習問題をつくる。	・絵図「黒船来航」や年表「開国とその後の動き」から、外国との力の差が背景となり、倒幕と明治の新しい国づくりの実現となったことを考えられるようにする。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【学習問題】明治維新では、何をめざして、国の仕組みや社会を変えていったのだろうか。</p> </div>					
			○学習問題に対する予想をもとに、学習計画を立てる。	・これまでの歴史の学習で学んだ視点を生かして、社会の変化の要因を予想するように助言する。	
2	3	開国後の生活の変化を調べ、人々の不満が倒幕や尊王攘夷のなどの考えとな	○教科書や資料集を使い、江戸幕府が倒れた経緯と要因を調べる。	・資料「幕末の米の値段の変化」から開国により米が急騰し、人々の生活が苦し	

べ る		り、江戸幕府が倒れ、武士の世の中が終わったことを考えることができる。	○倒幕の中心となった人物たちが実施したこと、めざしたことを調べる。	くなったことや、資料「江戸幕府滅亡の流れ」から、武士の中からも倒幕の動きが起こったことを気づかせる。
	4	明治政府が行った廃藩置県や身分制度などの改革を調べ、政府がどのような国づくりを目ざしたのか考えることができる。	○教科書や資料集を使って、政府が行った諸政策から社会がどのように変化したか調べ、自分の考えをまとめる。	・資料「五箇条の御誓文」から、明治政府の諸政策に着目し、新しい政府のめざした国づくりを具体的に捉えるようにする。 ・江戸時代の身分制度と四民平等や解放令を比較し、身分の差を少なくしようとしたことに気づかせる。
	5	富国強兵の政策について調べ、明治政府が欧米に追いつくための国づくりを目指したことを考えることができる。	○教科書や資料を使って、政府が行った地租改正や徴兵令、産業を発展させるための政策を調べる。 ○政府がどのような国づくりを目ざして国づくりを進めたのかまとめる。	・地租改正や徴兵令を政府と農民や国民の立場から考え、立場によって新しい制度に対する捉え方が違うことに気づかせる。
	6	明治時代の人々の生活について調べ、欧米の文化や考え方を取り入れたことで、人々の生活が大きく変化したことを考えることができる。	○教科書や資料を使って、衣食住・交通・情報伝達・制度などに着目し、明治時代の近代化の具体例を調べる。 ○明治時代の人々の暮らしや考え方が現在の暮らしにどのような影響を与えているか考え、まとめる。	・資料「明治時代の初めてのころの東京」から、服装、建物、乗り物などから生活様式やまちの変化に気づかせる。また、江戸時代と変わっていないものにも着目させ、急激な変化の過程であったことに気づかせる。
3 深 め る	7	明治維新の変化について、根拠となる資料や事象から「明治維新の通知表」に自分の考えを表現することができる。	○明治維新の諸政策や近代化について、調べたことをもとに、当時の様々な立場や既習の時代の変革期と比較して、ワークシート「明治維新の通知表」に評価する。	○評価する基準として、「時代が変わったのか、変わっていないのか。」、また、「変わったのであれば、それはプラスの変化なのか、マイナスの変化なのか」と見方・考え方を具体的に示すことで、判断できるようにする。

4	8	「明治維新の通知表」から、班で話し合う活動や学級全体で交流する活動を通して、自分自身の考えを表現するだけでなく、友だちと対話したり、考えを共有したりして、理解を深め、単元全体のまとめをすることができる。	○前時にまとめたワークシート「明治維新の通知表」をもとにグループや学級で話し合う。 ○友だちの意見や話し合ったことを踏まえて、明治維新について再度自分の評価を考え、国づくりや社会がどのように変化したか表現することができる。	○通知表に評価した根拠・理由を資料や既習内容などからはっきり示すように助言する。 ○主な出来事に関連しているものに着目し、幕末の出来事が明治政府の国づくりにつながっていることを捉えさせる。
---	---	---	--	---

### ③授業の実際

#### ア 主眼

明治維新の政策について評価する活動を通して、既習の時代の転換期や人々の生活の変化等から分析・判断し、対話的活動を行うことで明治の国づくりの特徴について考えるようにすることができる。

イ 準備 ワークシート「明治維新の通知表」 年表「開国とその後の動き」  
タブレット(ロイロノート)

#### ウ 展開

	学習活動	指導上留意点	配時
導入	1 前時に自分の考えをまとめたワークシート「明治維新の通知表」をもとに班や学級全体で交流することを確認する	○話し合い活動の中では、自分の考えが歴史的事象との関係や、社会の変化、人々の生活の変化など、グラフや資料を用いて根拠・理由となるものを提示するように指示する。	3分
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>めあて</b> 明治維新では、何をめざして、国の仕組みや社会を変えていったのだろうか。         </div> 2 班でワークシート「明治維新の通知表」にまとめた考えをもとに話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             ・地租改正はお米が不作の時にきついで☆は3つかな。              ・四民平等は本当の平等じゃないから☆1つ。              ・学制は学校に通う子どもが増えたから☆4つだと思う。           </div>	○それぞれの考えについて発表したり、質問したりして意見を出し合い、明治維新の政策について多角的に捉えることができるようにする。 ○班での考えをロイロノートにまと	15分

まとめ	<p>3 学級全体で、班でまとめた意見を発表し、自分の通知表の評価を見直す。</p>	<p>め、提出箱に提出させ、回答を共有することで、他の班の考えと比較することができるようにする。</p>	10分
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四民平等は差別される人がいたから×</li> <li>・殖産興業は工業が発展したから○</li> <li>・地租改正は不作でも同じ金額の税金を納めないといけないから×</li> </ul> </div>	<p>○歴史事象や資料、グラフ等をもとに考えを説明できていることを称賛し、社会的な見方・考え方の大切さに気づかせる。</p> <p>○既習内容の転換期と比べたり、政策の良いところ・悪いところを明確に意識できたりするように板書を工夫し、明治維新を総合的に評価させるようにする。</p>	
	<p>4 班や学級で話し合ったことをもとにして明治維新の総合評価を通知表にまとめる。</p>	<p>○明治維新の政策は政府・武士・農民など立場によって良いところと悪いところが違うことを考えさせ、多角的に捉えさせることができようにする。</p>	7分
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四民平等は、江戸時代の身分制度がなくなり、名字や職業など自由に選べるようになった所は良いところだと思う。でも、本当の平等ではないと思うから、☆は一つ。</li> <li>・富国強兵は工業が発展して良い所もあるけど、徴兵令で戦争につながったから☆は二つ。</li> </ul> </div>		
	<p>5 総合評価を発表し、学習問題についてのまとめを文章で表現する。</p>	<p>○大きな視点で歴史的な事象を捉えている意見を意図的に指名し、見方・考え方の良さに気づかせる。</p>	10分
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸時代の人々の不満や政治の失敗をもとに、天皇中心の新しい国づくりをめざした。</li> <li>・外国に負けない力をつけるために富国強兵の国づくりをめざした。</li> <li>・西洋の文化や生活を取り入れた国づくりをめざした。</li> </ul> </div>			
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>まとめ</b> 明治維新は、天皇を中心に外国に負けない豊かで強い国づくりをめざして、新しい政策や社会のしくみをつくった。</p> </div>			

## 8 研究のまとめ

### (1) 実践1 成果と課題

#### ① 成果

○「全国統一の動き」の指導において、つかむ段階で地図「1560年頃の領地」と地図「1590年頃の領地」を比較させたことで、短い期間で領地が拡大したことに着目し、「なぜ、統一できたのだろうか？」という疑問をもたせることができた。

○絵図「長篠の戦い」から、「鉄砲を使ったから?」、「外国と貿易や交流したから?」など、今後の学習へとつながる予想を立てることができた。

○調べる段階では、児童の予想から3人の業績を資料から読み取り、「外交・戦い・政策」の3つの視点で歴史的な事象を分類したり、関係性を考えたりして天下統一の要因を、ICTを活用してまとめることができた。【資料1】

鉄砲1000~3000丁連続発射で勝利を収めた

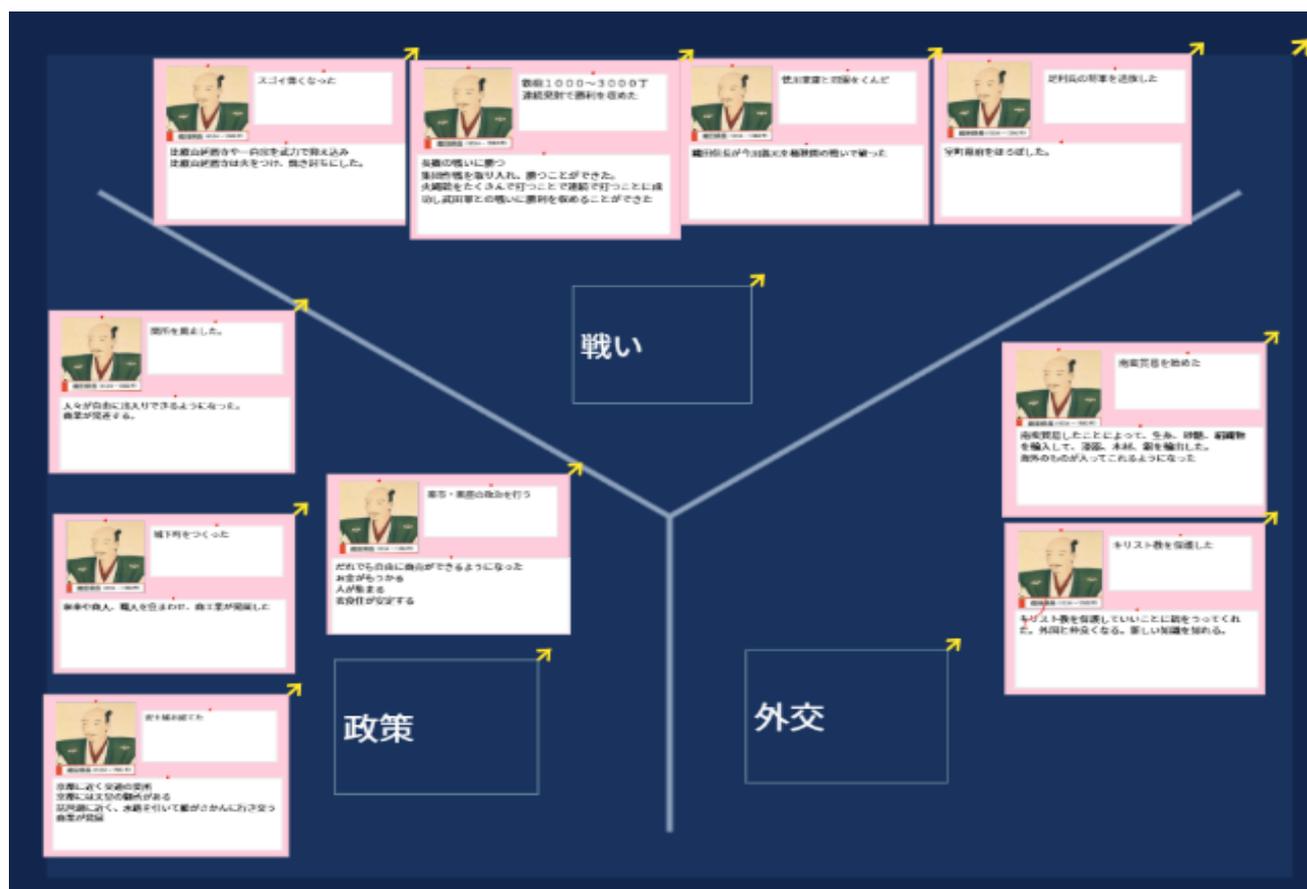
長篠の戦いに勝つ  
集回作戦を取り入れ、勝つことができた。  
火縄銃をたくさんで打つことで連続で打つことに成功し武田軍との戦いに勝利を収めることができた

楽市・楽座の政治を行う

だれでも自由に商売ができるようになった  
お金がもうかる  
人が集まる  
衣食住が安定する

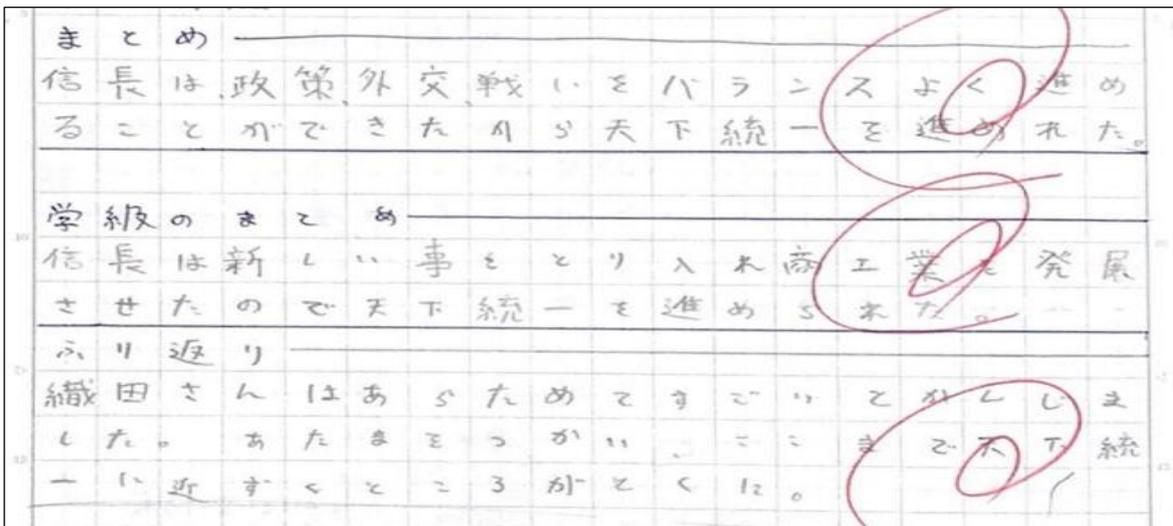
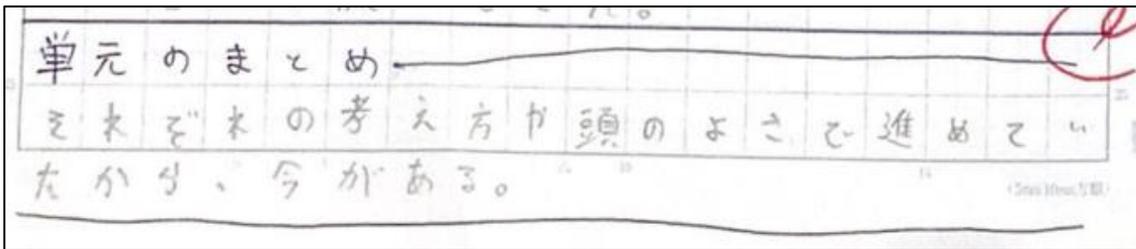
#### 【資料1】 児童がまとめた天下統一の要因

○調べる段階では、児童の予想から3人の業績を資料から読み取り、「外交・戦い・政策」の3つの視点で歴史的な事象を分類したり、関係性を考えたりして天下統一の要因を、ICTを活用してまとめさせた。そのことをもとにロイロのノートのY字チャート的思考ツールとして活用させ、自分の考えを構造的に整理することができた。【資料2】



### 【資料2】 ロイロのノートのY字チャート

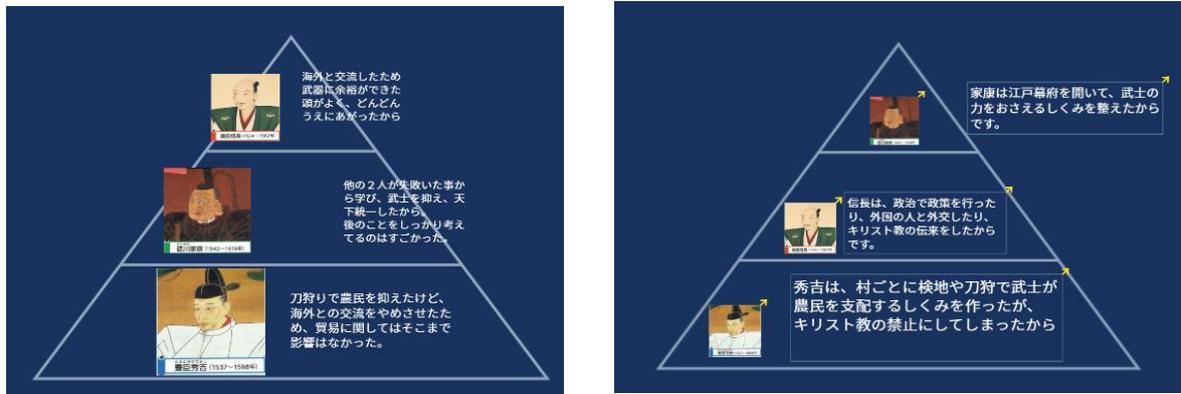
- 深める・まとめる段階では、思考ツール（Yチャート・ピラミッドチャート）を活用することで交流の視点をもつことができ、お互いの考えを比較したり、一致点や相違点を考察したりすることができた。自分の考えを文章に書くことが苦手な児童も、同じ思考ツールを使って話し合ったので、それぞれの考えを交流することができた。
- ICTを活用することで、すぐに情報共有でき、共有画面で考えを視覚的にも比べたり、班員間で考えをまとめたりすることができた。デジタル上で作業することで、カードの複製やシンキングツールの切り替えなどができるため、それを参考に効率的に話し合いを行うことにつながった。
- 思考ツールを活用し、調べた歴史的事象を見方・考え方を働かせて分類し、構造的に捉えることができ、3人の業績がどのように天下統一に影響したか理解することができた。また3人の業績を比較し考えることができ、それぞれの業績の意味を理解し、文章として書くこともできた。【資料3】



【資料3】 児童が築いた単元のまとめ

②課題

●思考ツールの一つピラミッドチャート【資料4】を活用して、3人の武将の業績を比較して考えることで低位の児童でも考えを持つことができたが、しかし、更に学力の低位層の児童はさらなる考えの構築のため、個別の指導が必要であったと考える。別の簡易なる事象を捉えさせることを練習することにより、自分の考えを深めることができると考える。



【資料4】 ピラミッドチャート

(2) 実践2 成果と課題

①成果

つかむ段階では、江戸時代と明治時代の様子を比較させ【資料5】、一致点と相違点を考えさせた。「幕末から明治時代でなぜこんなに生活が変わったのかな?」「武士の時代と様子が違うな」など、本単元の学習につながる疑問や予想をもつことができた。



【資料5】江戸時代と明治時代の様子を比較させた絵

○深まる段階では、明治維新政策を5段階評価で表すという活動であったため低位の児童も活動に積極的に参加する姿が見られた。それぞれ、今までの既習内容や現在の憲法や人権等に対する考えから、根拠をもって評価することができていた。【資料6】

※歴史上の人物をイメージすると評価しやすい。		※他の時代の区切り(転換)と比べて考えよう!!	
<p>廃藩置県 ★★★★★</p> <p>藩を廃止して県を県にした。天皇の選んだ人を役人として自己置</p>	<p>コメント</p> <p>各地に開港場自由 買売が自由 新しい制度がスタート</p>	<p>話し合った結果</p>	
<p>富国強兵 ★★★★★</p> <p>自国の軍を算出した上に強国になる</p>	<p>コメント</p> <p>明治の民権自由 眼度のかんげいを平等に</p>	<p>話し合った結果</p>	
<p>四民平等 ★★★★★</p> <p>身分を平等にして名字を白姓にした</p>	<p>コメント</p> <p>江戸時代の身分制度をなくす。 百姓・町人・平民・武士・公家 天皇・幕府・公家・大名・幕府 各々、仕事をするに違わぬようにする</p>	<p>話し合った結果</p>	<p>名前の自由 身分の自由 仕事をするの自由 刀を捨てた!!</p> <p>百姓などの平民に自由が</p>
<p>地租改正 ★★★★★</p> <p>新政府はエッセの価値(セイイ)を流してエッセに代わる税金を現金で納めることにする</p>	<p>コメント</p> <p>年貢(米)の値と食料がなくなるため 苦しめたけど 米の値に代わったために食料が なくなさなくなる</p>	<p>話し合った結果</p>	

### 【資料6】 児童が記入した明治維新の通知表

○まとめる段階では、班ごとにそれぞれの考えを発表させ、意見交流を行った。政策を数値化して評価したことから、それぞれの考えの違いが明確になり、児童自身からその根拠を伝え合う場面が多く見られた。【資料7】

<p>3班</p> <p>四民平等 ☆☆☆ ・平等じゃないから</p>	<p>四民平等 ★★★★★ ・名字 ・結婚 ・仕事選び が自由になったから。 ・刀を持たない</p>
<p>四民平等 ☆☆☆☆ 身分で差別されることがほぼなくなった。</p>	<p>四民平等☆☆ 名字・結婚・職業など江戸時代に比べて自由に選べるが増えたが、まだ、本当に自由はないから。差別は強く残ったから。</p>

### 【資料7】 ロイロノートを活用し、班ごとの意見を比較

○班の意見交流後、ロイロノートを活用して、学級全体で交流した。話し合い活動の中で、それぞれの政策で、立場の違いでプラスになる人とマイナスになる人がいることや、一つの政策が違う政策につながっていることなど、歴史的事象を多角的・多面的に捉えている意見がでた。学習の振り返りでも、友だちの意見と自分の意見の一致点や相違点を比較し合うことで、明治維新の政策の理解が深まったことを実感している様子が推察できた。【資料8】

日本は外国と不利な条約を結んでおり、強い国をつくり外国と平等な立場になりたいと考え、外国に日本は強い国といわれるように欧米の考えを取り入れてきた。

国民がすべて平等だという考えで国づくりを行ったのは、身分の低い立場の人の不満を和らげるのではということがわかった。また、外国からも日本は進んでいると思われたかった。

## 【資料8】 生徒が考えた新政府明治維新を行った理由

### ② 課題

- 話し合い活動において、時間配分等がうまくいかず、十分に自分の考えを再構築してまとめることやそれぞれのまとめを伝え合う時間を確保することができなかった。授業づくりにおいてタイムマネジメントが必要であると感じた。そのためには、児童にどのような知識を身につけさせたいのか整理し、教師自身が「知識の構造図」をしっかりとつかむことが大切であるとする。

## 9 本研究の成果課題

### ①成果

- 学習の視点を明確にする資料提示の工夫をしたことで、児童が自ら課題設定や学習に見通しを持つことができ、単元を通して社会的な見方・考え方を働かせながら、問題解決に向けて、主体的に自分の考えをつくることが出来た。
- 思考ツールを活用し、個々の生徒が考えを築き対話的な学習活動の工夫を行ったことで、自分の考えを因果関係をもとに論理的に捉えることができた。また、交流場面では交流する視点を明確にし、お互いの意見を比較し、その一致点や相違点を見つけることにより主体的・対話的な交流活動が展開できた。
- 思考ツールを活用することで、低位児童も自分の考えを表現することができ、自信を持って話し合い活動に参加することができた。

### ②課題

- 思考ツールの活用について、教師の説明の場面が多くなったため、学習に対して受け身の児童が多かったと感じた。学習において、自分の考えを深めさせるために、社会科の単元だけでなく日頃の様々な教育活動の中でもどのような思考ツールを活用することが良いかを選択させたり、様々な場面で思考ツールを活用したりするなど多く活用する場面が必要であると感じる。
- 対話的な活動において ICT を活用したことで、全体的には班や学級の意見を視覚的にとらえながら交流し比較することができるようになった。しかし振り返りにおいて自分の考えを再構築するスキルについて、学力的に厳しい児童を中心に十分に理解させることができなかつた感がある。この振り返りの場面においても、ICT を活用し図表を通して視覚的・構造的にまとめる方策を定着させることで、さらなる「深い学び」につながると考える。
- 主体的・対話的で深い学びを目指す授業構成において、交流活動等を設定するために多くの時間を費やした。限られた時間で授業成立させるためにもタイムマネジメントが必要であると感じた。そのためには、児童にどのような知識を身につけさせたいのか、その手立てをどのように設定するかについて見通しを持つ必要がある。教師自身が「知識の構造図」をしっかりとつかみ、単元全体の学習について全体を見通して計画的な学習過程を設定する必要があると考える。

◎参考資料

- ・ 小学校指導要領解説 社会編 (文部科学省)
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」を実現する社会科授業づくり 北俊夫 (明治図書)
- ・ 「見方・考え方」を働かせて学ぶ社会科学習モデル6年 澤井陽介 (明治図書)
- ・ 深い学びに導く社会科新発問パターン集 宗實直樹 (明治図書)
- ・ ICTで変わる社会科授業 実践編 朝倉一民 (明治図書)